主論文の要約

論文題目：　**中国江南のモチ米食文化とその機能に関する民俗学的研究**

氏　名：　**甘　靖超**

論文内容の要約：

本研究は中国の稲の発祥地であり穀倉地帯でもある揚子江下流域南岸の「江南」地域６都市（南京･鎮江・常州・無錫・蘇州・嘉興市）のモチ米食文化に関する民俗学的研究である。中国江南地域では米とくにモチ米食品が古くから行事食とされ、今なお年中行事や通過儀礼に頻繁に用いられ、モチ米関連の民俗文化と習俗が多く見られる。

しかし中国のモチ米食文化の先行研究は、地域的に見て西南部の雲南省や貴州省に集中しており、対象としては漢民族以外のモチ米を主食とする少数民族に関心を寄せているものが多い。江南地域のモチ米食文化に関する詳細な事例研究は管見の限りきわめて少ない。なお以下のような限界性がみられる。

（１）研究資料と方法の限界性：歴代の地方志に基づく歴史文献の解読が中心であり、実地調査を踏まえた現代の生活者の実践についての一次資料と考察は非常に限られている。

（２）研究対象地域の区分における限界性：市レベルの行政単位を研究対象地域としており、市域内の都心部と近郊農村部、または市域内の村落同士に存在するモチ米食文化に多様性があるにもかかわらず、それを一概に論ずる傾向がある。

（３）研究視点の限界性：モチ米食品の奉納・贈与・共食という視点から、食の持つ社会的機能を考察するアプローチはほとんどない。

以上の先行研究の限界性を踏まえ、本研究は地域の食文化に関する民俗学的研究を志しており、江南地域における実地調査から得られる一次資料を中心に文献資料で補強し、民俗学的視点から考察することに主眼をおいた研究方法とした。モチ米食文化の多様な地域性を重視するため、江南地域の農村部と都市部で調査を実施した。農村部という伝統的な共同体における実地調査は、年中行事と通過儀礼に見られるモチ米食品の食事行動を加工と分配の両面から考察した。参与観察と聞き取り調査ともに、①何を、②いつ、③どこで、④どのように、⑤幾つ、⑥誰が、⑦誰に、⑧何のために、という８つの設問を意識して行った。都市部における実地調査は、伝統的モチ食文化が商業活動や社会奉仕活動に活用される可能性を提示するために、モチ米食品の生産者と消費者の動向のみならず、モチ米食文化をもとに展開している新たなビジネスや教育活動、社会奉仕活動にも注目した。

広大な調査対象地域ゆえに筆者の参与観察は江南地域全土に及んでおらず、依拠した調査協力者の口述資料に協力者とその家族の個人的経験によるものであることは否定できない。こうした制約を補うために、本論文は実地調査に中国江南地域の民俗誌などの文献資料を以て補強し、できる限

り江南地域の調査対象地に普遍的にみられるモチ米食文化を描き出すように試みた。

本論文は序章と終章を含めて合わせて７章より構成される。序章では、まず本論文の研究対象である「モチ米食品」の定義、研究上の重要概念「モチ米食文化」の意味、研究対象地域「中国江南」の範囲を明示した。そして先行研究の到達点と限界性を整理したうえ、本研究の目的・方法・意義を述べた。第１章は、清代から中華民国時代の中国江南の年中行事と通過儀礼に見られる米食習俗の歴史的な様相を整理した通史的記述である。第２章から第５章は第１章を引き継ぐ形で現代中国江南の農村と都市に見られるモチ米食文化の現状を共時的に論述した。第２章は、江南地域の農村部における筆者の実地調査の概要と、調査対象村落の位置や歴史沿革、経済状況などの概要を述べた。第３、４章は第２章で述べた調査地の土地柄を背景に中国江南の農村部という伝統的な共同体におけるモチ米食文化の現状を明らかにした。第３章は年中行事から、第４章は通過儀礼に着目してモチ米食品の加工・奉納・贈与・共食を詳細に記述し、そこからモチ米食品の有する行事食や儀礼食としての文化的社会的機能の分析を試みた。第５章はそれと対照させるように江南の都市部におけるモチ米食文化の活用に着目した。消費化社会に置かれたモチ米食品の生産販売の実態や、モチ米食文化を商業活動や社会奉仕活動に活用させた事例を述べた。終章では、各章の結論を整理した後、中国江南のモチ米食文化の多様性と地域性、行事食・儀礼食とするモチ米食品の特殊性を改めて整理し考察した。

各章の概要と結論は以下の通りである。

序章では、本論の研究対象である「モチ米食品」を、モチ米を主な素材として加工した伝統的な食べ物で、主に年中行事や通過儀礼に用いられる食品、と定義している。本研究で扱う「モチ米食文化」は、年中行事や通過儀礼などにおけるモチ米食品の奉納・贈与・共食をめぐって形成されてきた様々な生活風習や民俗信仰、社会規範を意味する。「中国江南」は、揚子江下流南岸の江浙平野に位置している江蘇省南京市・鎮江市・常州市・無錫市・蘇州市と浙江省嘉興市を指す地域である。中国江南地域のモチ米食文化に関しては実地調査を踏まえた詳細な実例研究が十分になされていないことを問題提起し、本論の目的と位置づけを述べた。

第１章ではまずは古代中国の米食品の呼び方を整理し、「饭・粥・麨・糗・粽・角黍・饵・糕・糍・餈・圆・团」などがある、とまとめた。そして江南地域６市の地方志 67 冊から、米食を用いる年中行事と通過儀礼に関する 381 項の記録を抽出した。そこから確認された 300 品目以上の米食が、年中行事や通過儀礼時に行われる神仏・祖先祭祀や卜占・疾病予防・厄払いや贈答・来客の招待に用いられ、それらが供物あるいは卜占・疾病予防・厄払いの道具または贈答・饗応品として機能していることを指摘した。

第２章では、本研究における調査対象地域の選定及び、調査協力者の選出に関する基準を述べた。調査対象地域にあたっては、稲作農業が盛んであることと、米食の習俗がよく伝承されていることを基準にした。調査協力者の 94 人に関しては年代層が 20 代から 80 代までに及ぶが、年中行事や通過儀礼の主な担い手である 50 代と 60 代の男女 56 人を主にした。そして江南地域の南京市東陽村・咸墅村・中山大街、鎮江市和平村、常州市薛埠村、無錫市鵝湖鎮、蘇州市同里鎮・団結村、嘉興市石欄橋村と、調査対象地域の９村落の位置・行政区分・歴史沿革・人口・経済産業などの概要をまとめた。この地域は揚子江や太湖を中心とする水系とその恩恵を受けた肥沃で広大な土地柄と

いう地理的な条件もあり、それが米などの農業生産や産業、流通などの発展、人口の流入など地域の繁栄を促したといえる。

第３章、第４章においては、現代中国の江南の９村落の年中行事と通過儀礼に用いられるモチ米食品の種類・加工法・食法を明らかにした。第３章は年中行事の際に行われる祖先供養と神仏祭祀におけるモチ米食品の奉納・共食行為に着目し、モチ米の行事食が奉納品として、祖先と子孫・人間と神仏の連帯感を再確認し結束させる機能を検討した。第４章は婚姻・産育儀礼・長寿祝い・葬送儀礼におけるモチ米食品の交換行為に注目し、モチ米食品の贈与･受贈･返礼から姻族・親族間や地域共同体内における人間関係の構築について考察した。モチ米食品の盛んな交換行為は、家同士の社会関係を成立させ、それを強化する機能を持つだけではなく、贈与者の家の経済力や社会的地位を誇示するという役割も果たしている。なお姻戚間におけるモチ米食品の贈与の回数・量・方向性にみられる不対等性を分析し、モチ米食品の交換から反映される婚家の贈与義務と嫁の実家、特に嫁の兄弟の優越した地位を論じた。

第５章では、モチ米食品の生産販売と新たな活用に注目し、利便性と経済性が優先される現代の都市文化の中で、伝統的なモチ米の行事食をめぐる人々の意識がどう変わったのか、またモチ米食文化が拡販活動や社会奉仕活動にいかに活用されているのかについて述べた。江南地域の都市部に現れてきたモチ米細工作りの工芸教室や、「社区」というコミュニティで行われるモチ米食品の共同製作・共同飲食といった行為が、都市部の人々にコミュニケーションの場と機会を提供し、家庭の和と社会的調和を図るために機能していると論じた。

終章では、モチ米がどのように加工されるのか（配合物・製法・形・色）と、何に使われるのか（16 年中行事・15 通過儀礼）をまとめ、江南地域のモチ米食文化の多様性と地域性を論じた。そして江南地域の食物の奉納・交換行為全般におけるモチ米食品の位置づけを、「かけがえのない供物・交換物」･「祖先や神との交流・交歓を象徴する供物」･「特別な力を有する食物」と帰結した。これは、モチ米食品の有する簡易な造形性と、その名称である「団・円・糕・粽」が「団・圓・高・中」（団らん・幸福・祈願成就の意）に通じるという民俗信仰を背景に成立していると指摘した。

本論文の成果は、主に以下の３つにまとめられる。一つ目は中国江南地域のモチ米食文化の現状と歴史的様相を明らかにしたことである。二つ目は中国江南地域のモチ米食文のもつ社会的文化的機能を明らかにしたことである。三つ目は伝統的食文化が商業化活動や社会奉仕活動に活用される可能性を提示したことである。本論文は地域食文化をめぐる食材、調理、器具、作法、食事行動などの文化様相を明らかにする生活文化の研究であり、現代の食文化を歴史的変遷の中で取り上げる通史的な研究でもある。こうした近代中国江南地域（清代から民国時代）と現代中国江南地域のモチ食文化を総合的に見ると、結果として現代のモチ米食文化が歴史的変遷を経て今日に至ったこと、近現代のモチ米食文化がこれまでの時を経た社会の反映としてあるもの、という理解に達する。

中国江南地域のモチ米食品の奉納・共食・贈与という一連の食事行動から行事食の持つ文化的社会的機能を考察することは、中国社会の基盤にある神仏信仰、祖先崇拝、親族関係、贈答共食、地域共同体のあり方などの慣習や規範を明らかにするために有意義かつ重要な意味を持つ。さらに中国江南の都市部では、現在モチ米食文化が商業や社会奉仕の面で資源として活用されているが、その新しい動向を探ることも本研究の独創性であると考える。